

ノ夜ニ於テハ其ノ要ナシト雖モ暗夜ニ在リテハ敵ニ曝露セザル如ク機關部ヲ照明シ得ル如ク施設ヲナスヲ可トス蓋シ裝填ヲ容易ナラシメ且ツ故障ノ排除ヲ爲スニ容易ナレバナリ、尙ホ前地ヲ照明スル爲メ野戰電燈等ヲ使用スルヲ得バ更ニ有利ナリトス。

夜間ノ射擊ハ之ヲ間断シテ實施スルヲ可トシ長ク持続スルハ嚴禁トス、何トナレバ攻者ハ射擊ヲ受クルヤ停止シ彈巢トナルコトヲ避クベク從ツテ低キ目標ニ對シ效果渺ナキ射擊ヲ爲スヲ以テ徒ラニ彈薬ヲ消費スルニ過ギザレバナリ。日露戰役中ニ於ケル夜間射擊ノ效力ニ關シ露ノ一雜誌上ニ掲ゲタルモノハ次ノ如シ。

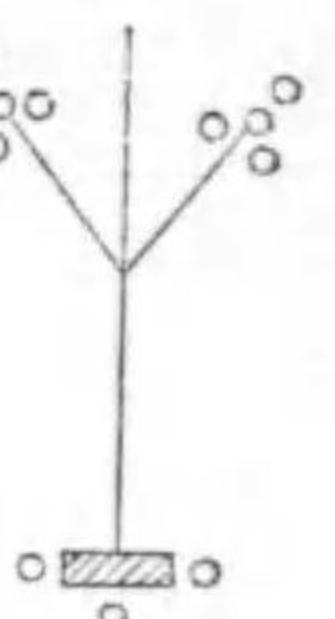
第五東部狙擊機關銃隊ハ九月二日夜我ガ防禦線前百五十米突乃至二百米突ノ距離ニ近接セル日本軍ノ攻擊ヲ擊退セリ。

此ノ中隊ハ當時夕刻前ヨリ照準ヲ定メ銃ヲ固定シ各機關銃ニハ銃手ノ若干ヲ配置シ監視セシム第一線ニ在リシ歩兵ハ連日ノ戰鬪ノ爲メ疲勞シ睡眠ノ狀態ニ在リ此ノ際最前線ニ在リシ一銃手ハ前方ヨリ潛行シ來ル二人ノ人影ヲ見タ

リ其ノ時機關銃隊長ハ該地ニ在リテ前地ヲ透視シタリシニ黒影群ヲ成シ前進シ來ルヲ知リ直ニ射擊開始ヲ命スルヤ準備セラレタル各銃ハ號令一下何レモ二連射擊ヲナセリ、幾程モナク暗闇四面寂トシテ聲ナク戰場ハ遺棄セラレタル傷者ノ悲慘ナル呻聲ヲ聞クノミニシテ爾後再ヒ攻擊ハ行ハレサリキト。

(ロ) (イ) (1) (2) (1)
ノ場合^①
銃ヲ射擊スベキ方向ニ直角ニ据ヘ。
畫間銃ヲ据ヘ得ザルモ敵ニ秘シテ其ノ設備ヲ爲シ得ルトキ。
全ク夜間ニアラザレバ設備シ能ハザルトキ。

(ハ) (ロ) (イ) (1) (3) (1)
兩前脚及後脚ノ衝鐵ノ下ヲ搗固ス。
杭ヲ以テ脚ヲ固定ス即チ左圖ニ示ス如シ。



(二) 照準線ノ維持

點射 普通ノ如ク照準シ方向緊定桿及解脫子ヲ繫メ銃身ノ所ニ左圖ノ如キ
杭ヲ作リ此ノ杭ノ $b-a$ 面ト銃身トノ間ニ若干ノ間隔ヲ存スル如ク楔子ヲ入
ル、但シ射擊ノ際ハ之ヲ脱スルモノトス。

銃身ト此ノ部分ニ若干ノ空隙ヲ存セシムルモノナリ。

又此ノ杭ニ代フルニ天幕ノ支柱ヲ用フ即チ二本ノ支柱ヲ杭ノ如ク縛リ置ケ
バ可ナリ。

薙射 兩端ニ薙射巾丈ケノ杭ヲ打入レ而シテ兩端ノ杭ハ點射ノ時ノ杭ト同
様ノモノヲ用フ。

- (1) 點射薙射共其ノ照準高ヲ定ムルニ燈火ニヨル法アリ即チ所要照尺ニテ照準
シ置キ又照尺ヲ某點迄上ゲ提燈ヲ照準スレバ可ナリ。
- (2) ノ場合。
- 最低及最高姿勢ニ於テ地面ヨリ所要距離ニ應ズル照尺ノ照門頂迄ノ高サヲ定
尺ニ目盛リス此ノ目盛リヲ爲セシ定尺ヲ照準手保持シ助手ニ他ノ棒ヲ持タシ
メ畫間銃ヲ据ヘントスル位置ニ至リテ位置シ助手ヲ二三十米突前方ニ立タシ
メ目盛ト目標トヲ照準セル線ヲ助手ノ棒ニ記シ是ニ白布ヲ縛ス。
- (3) ノ場合。
- 夜間ハ白布ノ代リニ線香ノ火又ハ隱顯燈等ヲ用ヒテ照準ヲ便ニス。

射擊セントル點ニ燈火ヲ點シ是ニ對シ照準ヲ規正シ置ク若シ敵ノ斥候等ニ
妨害セラル、處レアル時ハ勇敢ナル斥候ヲ派シテ此ノ地點附近ニ照明ヲ爲サ
シメ其ノ火光ニ依リ機敏ニ照準ノ方向ヲ付クルヲ可トス。

裝填操作及故障ヲ生シタル時、之ヲ容易ニ修正スル爲メニ照準機ヲ照ス方法ハ
天幕ヲ銃ノ上方及敵方ニ面スル方向ニ支柱ヲ以テ張リ射擊ニ必要ナル開口ヲ

存セシメ是レヨリ銃口ヲ出スモノトス。

其ノ他地形ト情況トニ依リ諸種ノ方法手段アルコトハ勿論ニシテ前項ハ單ニ其ノ一例示シタルニ過ギザルモノトス。

第六章 步兵ト機関銃トノ協同動作

機関銃ハ聯隊戦闘ノ骨子ニシテ歩兵ト最モ密接ナル關係ヲ有スルモノナルヲ以テ兩者ノ圓滿ナル協同動作ニ就テハ吾人ハ大ナル注意ヲ拂ヒテ研究セザルベカラズ而シテ其ノ協同動作ハ敵ノ位置、地形及友軍ノ展開ノ狀況等ニ依リ固ヨリ其ノ陣地ノ選定ニ差異アリト雖モ之ヲ概別スレバ概示左ノ場合アリ。

一 機関銃ヲ翼側ニ使用シ得ル場合(機操第五十八)

二 友軍歩兵第一線附近ニ在ル高地ヲ利用シテ使用シ得ル場合(機操第五十八)

三 兩翼ハ限界セラレ前二項ノ場合ニ該當セズシテ止ムナク歩兵線ニ投入シテ使用シタル場合(機操第七十五)

第一ノ場合ニ在リテハ兩者ノ協同動作ハ多ク困難ヲ感スルコトナシ即チ機関銃



ヲ歩兵線ノ一翼ニ使用シテ歩兵ノ前進ヲ射撃ヲ以テ援助シ且ツ之ヲ妨害スルコト稀ナレバナリ、所謂機関銃ノ側防火(機操第五十八)ニシテ左圖ニ示スガ如シ。

上圖ニ於テ友軍歩兵第一線ノ

右翼ト右小隊機関銃ノ照準線

トノ間隔即チ—^{h'}_{a'}—ハ歩兵ノ第一

線ノ右翼兵ニ危険ヲ與ヘザル

ヲ以テ度トセザルベカラズ今

單ニ學理上ヨリ言ヘバ此ノ問

隔ハ三八式機関銃ノ水平公算

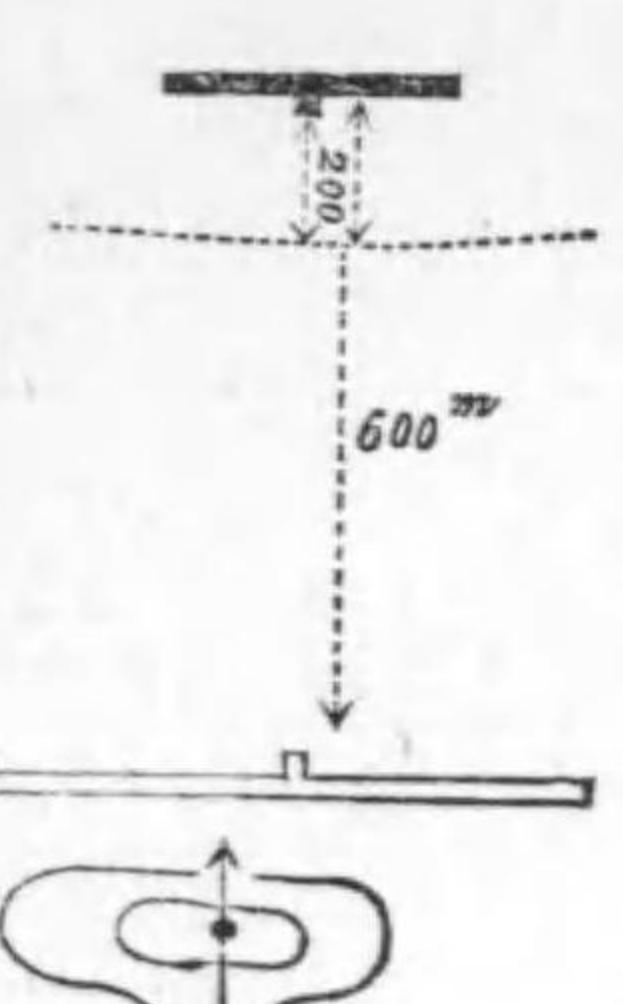
躲避ノ四倍餘ヲ存スレバ可ナ

ルガ如シト雖モ發射彈數ノ増加ニ伴フ躲避ノ增加ト戰時ニ於ケル公算躲避ノ倍加トハ以上ノ間隔ニテハ不十分ナリ况ニヤ往々ニシテ不規彈ノ在ルニ於テヲヤ、今一萬發ヲ發射シタル三八式機関銃ト假定セバ此ノ水平公算躲避ハ中距離ニ於テ平均約五十粍ナルヲ

以テ之レヲ全被彈面(八倍)トスルモ四米ニシテ尙ホ其ノ安全ヲ期スル爲メ之ヲ
倍加シ且ツ若干ノ餘地ヲ存シテ十米ト爲スヲ可トスル論者アリト雖モ此ノ如
クスルトキハ其ノ彈丸ハ右翼兵ノ直前約八米ヲ通過スルヲ以テ其ノ安全ヲ保
シ難シ故ニ $a'h'$ ノ間隔ハ二乃至三十米ヲ以テ適度トス。

第二ノ場合ニ於テ散兵線附近ニ比高約十米ノ高地アリトセンカ此ノ際該高地上
ノ陣地ヨリ歩兵ノ前進ヲ援助スペキ射撃ノ程度ハ即チ第二篇第五章第四節ノ友
軍超過射撃ニ於テ詳細研究セラレタル如ク敵ヲ距ル約二百米突附近迄射撃ヲ爲
スコトヲ得爾後機關銃ガ我ガ突撃ヲ準備且ツ援助スル爲メ尙ホ前進シ得ルヤ否
ヤハ地形ト敵火ノ效力トニ關スルコト多ク要スレバ夜暗ヲ利用シテ第一線ニ陣
地ヲ變換セザルベカラズ而シテ爾後ノ動作ハ第三ノ場合ト一致スルニ至ルベシ。

第三ノ場合ハ現今ノ戰闘ニ於テ大團隊ヲ戰場ニ用
ユルノ結果通常聯隊ノ兩翼ハ他部隊ノ爲メニ限界
セラレ適當ナル側方ノ陣地選定ヲ許サル場合多
ク且ツ又散兵線ノ後方ニ適當ナル制高ノ陣地アル



如キ好都合ノ地形ハ戰場ニハ常ニ存在スペキモノニアラズ滿洲ノ平野ノ如キ殊
ニ然リ故ニ已ムヲ得ズ機關銃ノ陣地ヲ步兵線内ニ注入セシメザルベカラズ此ノ
如キ場合ハ吾人ガ屢々遭遇すべき情況ニシテ隨テ研究ヲ要スペキモノナリ、操典
第七十五ニ曰ク。

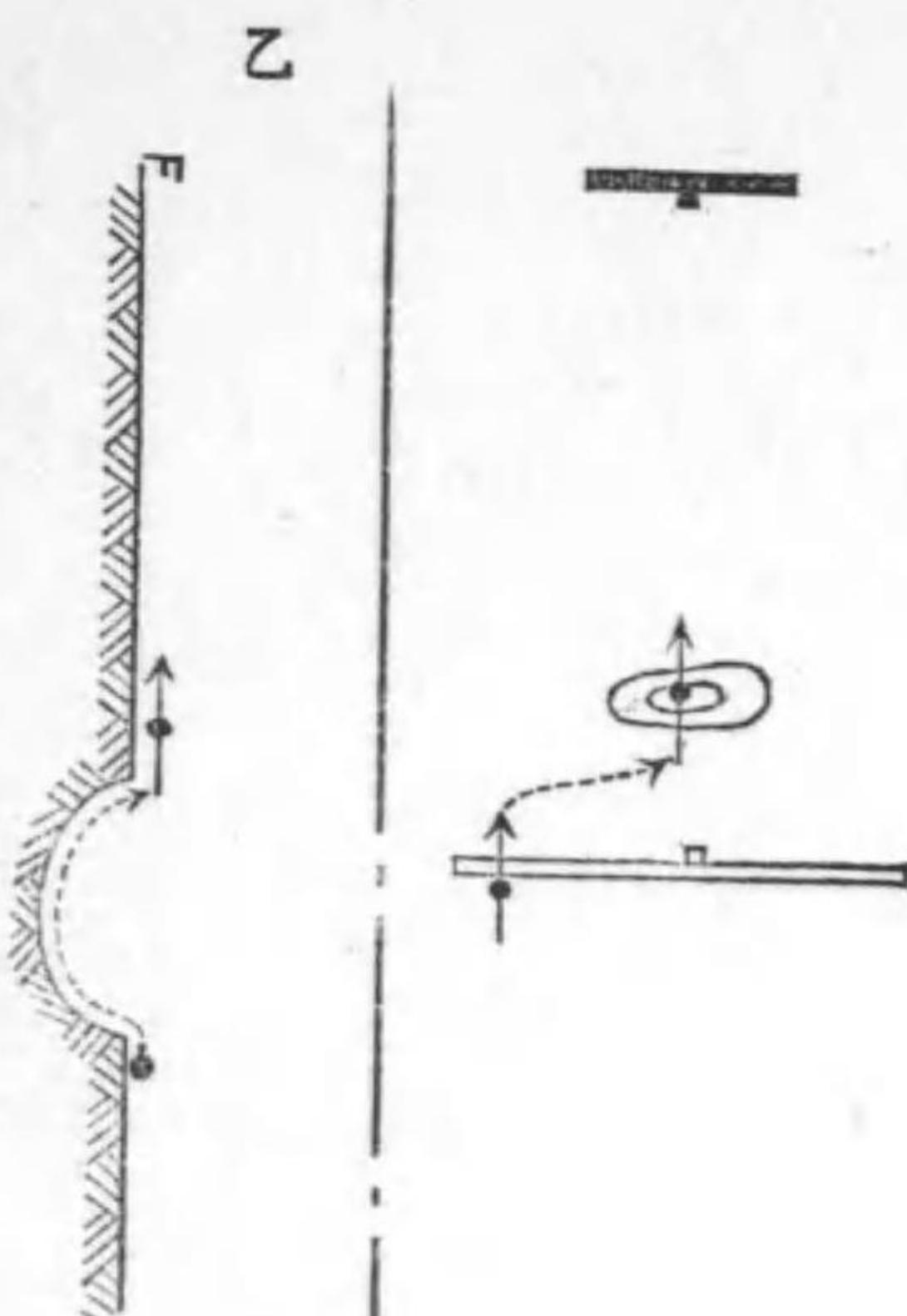
攻擊ニ際シ機關銃ヲ散兵線内ニ用ヒタル場合ニ於テハ地形ノ關係上散兵ノ前
進ニ伴ヒ機關銃ノ陣地ヲ換フルノ已ムナキニ至ルコトアリ又散兵ノ前進ニ先
チ既ニ陣地ヲ換フルヲ必要トスルコトアリ歩兵ノ突撃ヲ最モ有效ニ援助セン
トスルトキニ於テ特ニ然リ此際附近ニアル歩兵部隊ハ直チニ之レト協同動作
ヲナスベキ義務アルモノトス。

機關銃散兵線内ニ用ヒラレアル場合ニ於テハ之ニ隣接セル歩兵部隊ハ其前進
ニ方リ機關銃ノ射撃ヲ妨害セザル如ク特ニ注意スルヲ要スト
此ノ主旨ヲ玩味スレバ即チ左ノ三ツノ場合ヲ生ス。

1. 步兵散兵ト同時ニ前進ス。
2. 步兵散兵ノ前進ニ先チ機關銃ヲ前進セシム。

3. 步兵散兵先づ前進シ次ニ機関銃是ニ追及ス。
- 第一ノ場合ハ歩兵ノ射撃ヲ妨グサルモ最モ必要ナル歩兵ノ前進ヲ援助スルコトヲ得ス是レ決シテ望ム所ニアラズ。
- 第二ノ場合ハ左圖ノ如キ地形ニ於テ屢々應用スルコトヲ得ルモノニシテ即チ先ツ機関銃ヲ散開前進セシメ其ノ援護下ニ歩兵ヲ前進セシム。

甲



第三ノ場合此場合ハ即チ歩兵線ト機関銃トノ躍進法ニシテ機関銃ノ直接左ニ隣接セル分隊ハ機関銃指揮官ノ命令ニヨリ機関銃ノ前進ト同時ニ躍進ヲ行フ是レ即チ歩兵線ノ躍進スル場合ニ於テ射撃效力ノ大ナル機関銃ヲ以テ援助射撃ヲ爲スト其ニ機関銃ノ兩側ニ在ル歩兵ノ前進ニ依リ機関銃ノ前進ヲ覆面スルコトヲ得レバナリ。

今機關銃ノ兩側ニ各一分隊ノ散兵ヲ協同セシムルトセバ機關銃ニハ七分隊ヲ要シ其ノ機關銃隊ノ正面約百五十米ノ火線ノ正面トナル此ノ如キ散兵線内ノ火線ノ間隙ハ是ニ連繫スル他ノ歩兵線ノ攻撃躍進ニ際シ機關銃ノ十字火ニ依リ我ガ前進歩兵ヲ妨害スル敵線ノ廣正面ヲ射撃スルコトヲ得テ歩兵ノ前進ヲ大ニ有利ナラシムルコトハ左圖ニ就テ見レバ明瞭ナリ即チ此ノ圖ニ於テハ約六百米ノ距離ニ於テ散兵ガ約百米及二百米ヲ躍進スル間我ガ機關銃隊ヲ以テ直前ノ敵ノ正面幾何米ヲ薙射シ得ルヤノ割合ヲ示スモノニシテ其ノ梯尺ハ五密ヲ二十米トナシ主線ハ敵ノ正面ニ直角ナルモノトセリ。

瑞西國步兵操典ニ曰ク。

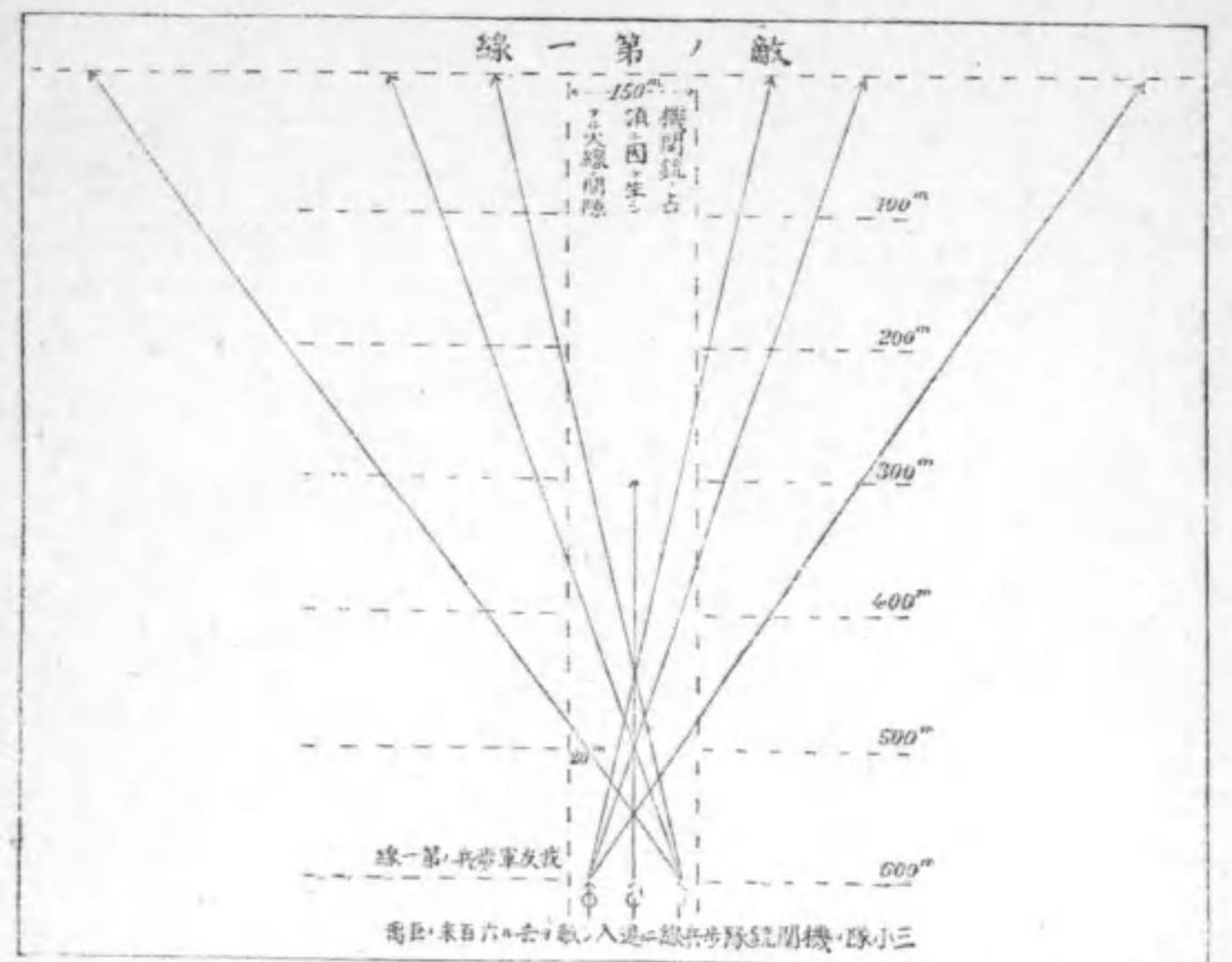
『歩兵聯隊ニ狙撃小隊ヲ作リ大間隔ニ散開前進シ敵ノ銃手ヲ射撃ス』ト

第八章 砲兵二對スル機關銃

機關銃ハ遠距離ニ於テハ砲兵ノ敵ニアラス却テ破壊セラルモノトス故ニ遠距
離ニ於テ砲兵ト威力ヲ爭フハ嚴禁トス、寧ロ砲兵ニ對シテハ遮蔽ノ處置ニ出デサ
ルベカラズ而シテ砲兵ニ對シテハ力メテ近接シ且ツ斜射又ハ縱射ヲナシ得ル位
置ニ突進スルニアラザレバ效果無シ是レ砲兵ニ對スル戦法ナリ。

日露ノ役奉天會戰三月一日午後四時頃第五師團ニ屬セル山砲兵一中隊ハ王家窩棚附近ニ在リシ機關銃破壊ノ命ヲ受ケ萬難ヲ排シ敵前約六百米突迄肉簿シ猛射ヲナシタル結果敵ノ機關銃ヲ全ク殲滅スルヲ得タリ。

世界大戰ノ基クノ機關銃之技術及其戰術終



第七章 步兵之機關統

二對スル戰法

歩兵ノ機関銃ニ對スル前進隊形ハ
歩兵ノ戰鬪法ト其ノ趣キヲ異ニシ
散兵ハ大間隔ニ散開シ各個躍進ヲ
爲スヲ可トス且ツ良ク地形ヲ利用
シテ前進シ少數ナリトモ出來得ル
限リ機關銃ニ近接シ銃手ヲ狙撃ス
ルニアリ一般ニ機關銃ニ對シテハ
外翼ヨリ斜射ヲ行フヲ有利トス、防
楯ヲ有スルモノニ在リテハ特ニ然リ
トス、散開シタル間隔大ナル時ハ命中
效力少ナキヲ以テ攻者ニハ有利ナリ。

◎發行所

電話芝五六〇五番
振替金口座二〇九八七番

兵事雜誌社

東京市赤坂區表町二丁目一番地

東京市麹町區下六番町十七番地

伊藤芳松正造

小野道山

著者

發行者

印刷者

全一冊郵稅八錢圓

機關統之技術及其戰術與付

大正五年五月廿五日印刷

大正五年五月廿四日發行

復讐不許
製刻

研究會著 ○好評噴々たる新刊書

優勢軍スル寡弱軍之戰術全

上等本クローラス金文字入
數體十個入製本本
全一冊郵金七十
稅八錢

帝國ノ境遇未來ノ戰場ハ吾人亦之ヲ談ラジ然レトモ何レノ國ト戰ヒ何レノ土地ヲ戰場トナストモ吾人
的作戰ヲナスペシト謂ハ、則チ止ム然レトモ斯ノ如キ作戰ノ外他ニ探ルヘキ道ナシト謂ハ、帝國ハ如何ニシテ其發展ヲ

略勝軍遂行シ得ヘキ力トナルハ極メテ容易ナリ。我帝國ハ此ノ困難ヲ排除ニ通常一遍ノ戰
略戰術タ又將統帥ヲ以テ満足シ得サル所ナリ。
然制研究會ハ茲ニ見ル所アリ地位アリ經歴アル某氏ニ嘱シテ優勢軍ニ對スル寡少軍ノ戰略戰術ヨリ軍ノ編
因果明晰蓋シ近來稀ニ見ルノ快文字ニシテ誠ニ本邦軍事界ノ一大光明タリ今本社其公刊ヲ許サレテ
ヲ江湖ニ紹介スルヲ得タルハ單ニ本社ノ光榮ノミナラズ實ニ軍事界ノ慶事タリ苟クモ本邦作戰ノ真
ヲナ誦ヲ解シ實戰場裡活人劍ヲ掉ヒ勝利ノ月桂冠ヲ得ントスルモノハ必ス之ヲ讀破セサルベカラサルノミ
アラズ又實ニ本邦軍人ハ之ヲ必讀スルノ一大義務ヲ負フモノナルコトヲ信セントス吾人敢テ誇大ノ言ミ
弄スルヲ好マズ蓋シ其真價ノ如キハ一讀ヲ俟テハ自ラ了知セラルヘキヲ以テナリ。

○發行所

振替金東京二〇九八七
電話芝五六〇五

兵事雜誌社

東京市赤坂區表町一二丁目一番地

研究會講話

戰原則の由來と根源全

體裁菊判說明木版
七十餘個入製本本
製金文字入
全一冊送料八錢

本書ノ非凡ノ價値アル事ハ世既ニ之ヲ知ル故ニ弊社ハ其價値ニ就き呶々スルヲ止メ唯ダ左ニ本書ノ
結構及內容ヲ紹介スルニ講話者ノ序ヲ以テス。表現された用兵の原則は從來甚たしく單簡に取扱はれて居る然し此等の原則の本性を詳に知らんと欲したなら、その產れた母體を知らねばならぬ、その母體を知り產れ具合を知りさうして後に始めてその表現されて居る原則が眞に理解が出來ると謂ふものである。さうして此の原則を眞に理解し、またその母體を知つて居ればその產れた原則の變化應用を間違ひなからしめ得るのである。それ故此の原則の母體と由來とを知ることは啻にその原則を正當に理解し得るばかりでなくその應用をもその變化をも正當に實施運轉し得るのである。此理由で本講話を試みたのである序に謂ふて置くが此の講話を聽かれたら是を基として更に諸君の研究を進め或は之を深くし又は更に諸君自身の所有物たらしめて欲しいのである。

大正三年二月

研究會講話擔當者

東京市赤坂區表町一二丁目一番地

振替金東京二〇九八七

兵事雜誌社

電話芝五六〇五

○發行所

兵書界の革命的新刊!!

◎兵書界の革命的新刊!!
研究會著 ◎大好評を博し忽ち賣切れ第五版發行

戦略戦術詳解

全七冊各一冊正價郵稅金八錢
體裁菊版頁數各冊
製本本製金文字前後

研究會の斯界に於ける地位は今更喋々するを要せずと雖も其會員の大多數は實施學校の要職にある者なることは既に讀者の熟知する所なりと信ず。又本社は曩に此初て完成したる未曾有の大戰術詳解は研究會が我國に良著なり。研究會員の奮勵と其不高等學府の教育に對比するも又以て誇りとなすに足るべし。况んや本書が純然たる日本戰術にして大和魂武士道の精神なる言辭を弄するを好まずと雖も本書を繙かずんば以て

○發行所

電話 芝五六〇五番 振替貯金口座二〇九八七番

兵事雜誌社 東京市赤坂區表町二丁目一番地

研究會著 ◎訂正第二版發行
新陣中舊野外要務令對照研究 全

(附改正理由)

體裁菊版
頁數約五百頁
全冊金七十五錢
郵稅金八錢

世界ノ大戰ハ今ヤ正ニ酣ナリ而シテ我陣中要務令ハ新タニ公布セラレタリ苟クモ職ヲ我陸軍ニ奉ズ
ハ速ニ之力改正ノ要點理由等ヲ明ラカニシ
キヲ期スルト共ニ刻下焦眉ノ急追レル實試ノ機會ニ應用シ
テ或ハ後ル、ナカラソコトヲ期セラルベキヤ勿論敢
ナリ
本社茲ニ見ルアリ曩キニ斯界ノ「オソリチ」タル研究會ニ嘱ス
ルニ新舊ノ對照研究ヲ以テセルニ同會ハ大ニ本社ノ斯舉ヲ諒トシ
トヲ以テ編纂セラレタルモノ即チ本書ナリ、其內容ガ
如何ニ簡明精確、而カモ微ラ
キ細量ト餘サハルニ於テ時運ノ要求ニ應ズルニ於テ
否ヲ判セラルハト共ニ之ヲ實際ニ運用スルニ於テ此千載一遇ノ好機ヲ逸スルナカラソコトヲ
春月ニシテ再版ヲ發行スルニ至レルニ見ルモ之ヲ知ラルベシ希ハクハ一本ヲ購求セラレテ此言ノ信

○發行所

電話 芝五六〇五番 振替貯金口座二〇九八七番

兵事雜誌社 東京市赤坂區表町二丁目一番地

『第一第二再出版』の販賣

改陣中興務詳解 全拾冊

研究會著三部全部出版完成急告!!!

體裁槢葉半製本
五字入紙數各三百本
製クロイス金文本
地冊金八十餘頁正價
送料八十五錢
內一百

東京赤阪區表
町二百一番地
兵事雜誌社

研究會著

範例的想定

體裁來判
三度刷隊形配布圖十餘枚入
全一冊 郵稅金六錢

數學には公理公式等ありて、之を達成するに得べし。
應用戰術豈に何等の條理系統研究會の指導者某某氏等が戰術研究の公理公式と
なるべからず想定一一十種を案出し、之を研究講話したるに大効。『範例的
相定』と命名し本社の請ひを容れて本書を發行するに至りしものなり。
本書に掲ぐる想定は僅に廿素よりも少なしとせす然れども此の二十の想定を研究すれば他の多種多様の觀観あり且つ複雜混淆せる想定に對しても分析解剖必ず其の歸着する所を發見するに足るべし。即ち本書の價值は多言を要せず左の名稱を以て知り得べし。

◎發行所

電話 芝 五六〇五番
振替口座番號二〇九八七番

兵事雜記

出版六切賣時しを評好々早行發書本

研究會の出す所叢に『作戦綱要』あり。幾何も無くして『改正歩兵操典詳解』あり。今又第三の研究として、茲に『決心問題と着眼點』を刊行するの榮を荷へるは、顧みて本社の欣懐措く能はざる所なり。

思ふに事物の成功すると否とは、一に其の着眼の敏なると否とに由り、又決心の如何に關するや固より大なり。換言すれば、着眼宜しくして適當の判断之に伴ひ、判断適正にして其の決心果敢なるに於ては、即ち少くとも先づ先制の利を攫得するものと謂ふべし。軍事上の事亦何ぞ異らん。一勝一敗、興亡隆替の跡、古來の戦史は歴然として之を指示せるに非ずや。

本書は即ち戦略上、戦術上、該二者の喫緊なる所以を述べ、以て各種の場合に於て、其の如何にすべきものなるかを縷述せるもの、もと陸軍大學受験者、及特志者の爲に研究講話せるもの。今請うて之を刊行するに當り、本社は刊行上自ら其の『着眼點』及『決心』の當を得たるを悦び、江湖に對しても亦『着眼點』及『決心』の機敏且果斷ならんことを勧む。蓋し之を繙くと一日早き時は、研究上修養上、即ち自ら機先を制するものなればなり。豈敢へて售るが爲にのみ爾か言はんや。

東京赤坂表町二丁目一番地
電話 芝五六〇五番

兵事雜誌社

研究會著

決心用問題和著有眼點黑

體裁美頁數二百餘頁

!!刀利!!星明の界術戦

研究會著 ◎忽ち初版再版賣切二三版發行

戰術難問題の解決

全二冊

百餘個入製本本製
上等クローラス金文
字入全上下二冊
各一冊金七十五錢
郵稅八錢
宛錢

陸軍大學ノ青年將校ノ登龍門ナリ苟モ其初一念ヲ貫徹セント欲スレバ必ズヤ其門ヲ叩カザルベカラズ然レドモ此事タル決シテ尋常一茶飯ノ談ニアラズ一度躊躇シテ起ツ能ハザランカ優勝劣敗ノ蹟ハ慘トシテ心神ヲ悼マシムルモノアリ是レ鞠躬盡瘁其及パザルヲ虞レシムル所以ナリ然リ而シテ大學入學試験中其最モ困難ナルヲ再審トナシ再審中最モ困難ナルモノヲ戰術トナス本社嘗テヒ再審試験難問題ノ解決ヲ兵事雜誌ニ掲グルヤ江湖ノ士督責從懇通シテ其大成ヲ促スコト切ナルモノアリ、謂フニ其事ノ取扱大シテ其益スル所甚大ナルニ因ルベシ茲ニ於テカ本社ハ更ニ未ダ發表セザル難問題數十ヲ加ヘ詳ニ之ヲ研究シ時ニ再審試験問答ノ要領ニ擬シ以テ從來嘗テ見ザルノ懇切ト精細トヲ發揮セリ希クハ江湖篤學士ノ渴仰ヲ醫スルヲ努メタリ請フ一本ヲ備ヘテ人後ニ落チザル準備ヲ整ヘ其初一念ヲ貫徹セソコトニ努力セラレヨ是レ本社私利ノ爲ニアラズシテ實ニ國家ノ爲切望ニ堪ヘザル所ナリトス

◎發行所

東京市赤坂區表町
電話芝五六〇五番

兵事雜誌社

來出は補増訂改の書本しりな中切賣

◎發行所

電話 芝五六〇五番
振替金番號二〇九八七

兵事雜誌社

東京市赤坂區表町二丁目一番地

◎改訂増補第十一版發行
改正步兵操典詳解 下

體裁菊判紙數各約三百頁

上卷一冊

郵金六十六銭

下卷一冊

郵稅五六十銭

數回の大戰役ヲ經テ今ヤ我ガ帝國ハ列強先進國ノ伍伴ニ入り最新ノ經驗者トシテ世界軍國ノ間ニ大ニ重キヲ爲セリ宜ナル哉其ノ新經驗ニ準據シテ編成セラレタル歩兵操典ノ公示セラル、ヤ列強競ウテ之ヲ翻譯シ一日モ新智識ニ後レザラントシテ其ノ研究ニ努力スルコトヤ此ノ如キハ實ニ我ガ陸軍ノ至ナル名譽ト言ハザル可カラズ然リト雖モ世運ハ須臾モ停滞セズ吾人ニシテ永ク此ノ名譽ヲ失墜セザランコトヲ欲セバ必ズ之ニ對スル責任ノ益々大ヲ加フルコトヲ覺悟セザルベカラズ著者諸氏深ク感ゼラル、所アリ特ニ會ヲ結ンデ操典ノ研究ニ其ノ熱誠ヲ注ギ衆思ヲ集メテ其ノ結果ヲ輯錄シ以テ是ニ本書ヲ公ニセラレタリ世間同感ノ士亦乏シカラズ半歲ニシテ

達シ、供給動モスレバ需用二件ハザラントス而モ其ノ間會試ミ改訂増補

ノ事業ハ益進行シ研究日ニ日ニ新ナルモノアリ乃チ今又之ヲ増刷スルノ機ニ際シテ更ニ改版ヲモノアリ必ズヤ讀者ノ渴望ヲ醫スルニ餘リアラン讀者其ノ内容ヲ檢シテ此ノ讀辭ノ溢美ニアラザルヲ知ラレヨ

廣本を告看過す勿れ

研究會著

新式兵棋詳解

體裁菊判。木板數個及附圖付。製本本製金字入
全一冊 郵稅七十八銭

本書は江湖戰術研究に熱中せらるゝ諸賢の既に熟知せらるゝ研究會に於て本邦に於ける兵棋のオーソリティーと稱せらるゝ某氏が其研究に基き講演せられたるものなり。

從來の兵棋は型に囚はれ非實戰的にして趣味も亦極めて低かりしか故に之を實施する者甚だ少なかりしが如し。某氏は深く之を慨し茲に此新式兵棋を唱導し敢て世界の進運に後れざらんことを期せり。目下我が高等學府に於ては此の方法を採用せられあるに反し軍隊其他に於て依然舊套を脱せざるは我が軍事界の耻辱ならずとせんや是れ本社が特に研究會と因縁あるを幸ひ請ふて公刊し廣く江湖に紹介する所以なり。

○發行所

振替金口座二〇九八七番
電話 芝五六〇五番

兵事雜誌社

陸軍中將閣下
陸軍少將閣下
單步兵少佐
河村陸軍少將閣下
志岐陸軍少將閣下
齋藤
藤瀬
著

青年將校ノ修養全

正餘體裁菊判紙數四百
頁製一本製金字入百
錢圓

兵事雜誌

三
九
一
九
八
七

兵事雜誌社出版略目

木全大佐校正	有川少佐校正	晴軒居士著	山本大尉著	步兵各個教練全一冊	B M 譯	東洋陰士譯	英國步兵操典摘要全一冊
横道少佐共著	垂井中佐共著	A B 氏著	A B 氏著	戰術想定作爲法全一冊	各兵科兵	各兵科兵	步兵隊戰闘射擊教範全一冊
各兵科用兵	各兵科用兵	應用戰術研究錄	應用戰術研究錄	學全第第一卷第二卷	四十一訂正增補第二版	四三	日本露戰役の實驗上に於ける野戰築城全一冊
將校用兵	將校用兵	圖上戰術研究錄	圖上戰術研究錄	全第第三卷三冊全	全第第二卷	四四	吉野少佐校正
全一冊	全一冊	參謀本部譯	參謀本部譯	第一輯全	全一冊	四五	大原少佐著
古戰今戰	單戰闘及復戰闘	利田中佐著	利田中佐著	全一冊	全一冊	四六	B M 氏譯
性	決戰準備射擊距離論	M K 氏著	M K 氏著	全一冊	全一冊	四七	奥田大尉著
行	小戰例評論及問題	河村大尉著	河村大尉著	全一冊	全一冊	四八	A B 氏著
戰	研究法	研究法	研究法	全一冊	全一冊	四九	東條中將著
術	研究法	研究法	研究法	全一冊	全一冊	五〇	吉野中佐校正
研	研究法	研究法	研究法	全一冊	全一冊	五一	A B 氏著
題	研究法	研究法	研究法	全一冊	全一冊	五二	基本戰術研究錄
古	古戰今戰	古戰今戰	古戰今戰	各冊	各冊	五三	舊獨逸步兵操典對照私解
今	古戰今戰	古戰今戰	古戰今戰	各冊	各冊	五四	新獨逸機關銃射擊教範
戰	古戰今戰	古戰今戰	古戰今戰	各冊	各冊	五六	舊獨逸步兵操典對照私解
闘	古戰今戰	古戰今戰	古戰今戰	各冊	各冊	五七	新獨逸步兵操典對照私解
及	古戰今戰	古戰今戰	古戰今戰	各冊	各冊	五八	舊獨逸步兵操典對照私解
復	古戰今戰	古戰今戰	古戰今戰	各冊	各冊	五九	舊獨逸步兵操典對照私解
戰	古戰今戰	古戰今戰	古戰今戰	各冊	各冊	六〇	舊獨逸步兵操典對照私解
闘	古戰今戰	古戰今戰	古戰今戰	各冊	各冊	六一	舊獨逸步兵操典對照私解
全	全一冊	全一冊	全一冊	各冊	各冊	六二	舊獨逸步兵操典對照私解
一	一	一	一	各冊	各冊	六三	舊獨逸步兵操典對照私解
三	三	三	三	各冊	各冊	六四	舊獨逸步兵操典對照私解
五	五	五	五	各冊	各冊	六五	舊獨逸步兵操典對照私解
七	七	七	七	各冊	各冊	六六	舊獨逸步兵操典對照私解
九	九	九	九	各冊	各冊	六七	舊獨逸步兵操典對照私解
一	一	一	一	各冊	各冊	六八	舊獨逸步兵操典對照私解
三	三	三	三	各冊	各冊	六九	舊獨逸步兵操典對照私解
五	五	五	五	各冊	各冊	七〇	舊獨逸步兵操典對照私解
七	七	七	七	各冊	各冊	七一	舊獨逸步兵操典對照私解
九	九	九	九	各冊	各冊	七二	舊獨逸步兵操典對照私解
一	一	一	一	各冊	各冊	七三	舊獨逸步兵操典對照私解
三	三	三	三	各冊	各冊	七四	舊獨逸步兵操典對照私解
五	五	五	五	各冊	各冊	七五	舊獨逸步兵操典對照私解
七	七	七	七	各冊	各冊	七六	舊獨逸步兵操典對照私解
九	九	九	九	各冊	各冊	七七	舊獨逸步兵操典對照私解
一	一	一	一	各冊	各冊	七八	舊獨逸步兵操典對照私解
三	三	三	三	各冊	各冊	七九	舊獨逸步兵操典對照私解
五	五	五	五	各冊	各冊	八〇	舊獨逸步兵操典對照私解
七	七	七	七	各冊	各冊	八一	舊獨逸步兵操典對照私解
九	九	九	九	各冊	各冊	八二	舊獨逸步兵操典對照私解
一	一	一	一	各冊	各冊	八三	舊獨逸步兵操典對照私解
三	三	三	三	各冊	各冊	八四	舊獨逸步兵操典對照私解
五	五	五	五	各冊	各冊	八五	舊獨逸步兵操典對照私解
七	七	七	七	各冊	各冊	八六	舊獨逸步兵操典對照私解
九	九	九	九	各冊	各冊	八七	舊獨逸步兵操典對照私解
一	一	一	一	各冊	各冊	八八	舊獨逸步兵操典對照私解
三	三	三	三	各冊	各冊	八九	舊獨逸步兵操典對照私解
五	五	五	五	各冊	各冊	九〇	舊獨逸步兵操典對照私解
七	七	七	七	各冊	各冊	九一	舊獨逸步兵操典對照私解
九	九	九	九	各冊	各冊	九二	舊獨逸步兵操典對照私解
一	一	一	一	各冊	各冊	九三	舊獨逸步兵操典對照私解
三	三	三	三	各冊	各冊	九四	舊獨逸步兵操典對照私解
五	五	五	五	各冊	各冊	九五	舊獨逸步兵操典對照私解
七	七	七	七	各冊	各冊	九六	舊獨逸步兵操典對照私解
九	九	九	九	各冊	各冊	九七	舊獨逸步兵操典對照私解
一	一	一	一	各冊	各冊	九八	舊獨逸步兵操典對照私解
三	三	三	三	各冊	各冊	九九	舊獨逸步兵操典對照私解
五	五	五	五	各冊	各冊	一〇〇	舊獨逸步兵操典對照私解
七	七	七	七	各冊	各冊	一〇一	舊獨逸步兵操典對照私解
九	九	九	九	各冊	各冊	一〇二	舊獨逸步兵操典對照私解
一	一	一	一	各冊	各冊	一〇三	舊獨逸步兵操典對照私解
三	三	三	三	各冊	各冊	一〇四	舊獨逸步兵操典對照私解
五	五	五	五	各冊	各冊	一〇五	舊獨逸步兵操典對照私解
七	七	七	七	各冊	各冊	一〇六	舊獨逸步兵操典對照私解
九	九	九	九	各冊	各冊	一〇七	舊獨逸步兵操典對照私解
一	一	一	一	各冊	各冊	一〇八	舊獨逸步兵操典對照私解
三	三	三	三	各冊	各冊	一〇九	舊獨逸步兵操典對照私解
五	五	五	五	各冊	各冊	一〇一〇	舊獨逸步兵操典對照私解
七	七	七	七	各冊	各冊	一〇一一	舊獨逸步兵操典對照私解
九	九	九	九	各冊	各冊	一〇一二	舊獨逸步兵操典對照私解
一	一	一	一	各冊	各冊	一〇一三	舊獨逸步兵操典對照私解
三	三	三	三	各冊	各冊	一〇一四	舊獨逸步兵操典對照私解
五	五	五	五	各冊	各冊	一〇一五	舊獨逸步兵操典對照私解
七	七	七	七	各冊	各冊	一〇一六	舊獨逸步兵操典對照私解
九	九	九	九	各冊	各冊	一〇一七	舊獨逸步兵操典對照私解
一	一	一	一	各冊	各冊	一〇一八	舊獨逸步兵操典對照私解
三	三	三	三	各冊	各冊	一〇一九	舊獨逸步兵操典對照私解
五	五	五	五	各冊	各冊	一〇二〇	舊獨逸步兵操典對照私解
七	七	七	七	各冊	各冊	一〇二一	舊獨逸步兵操典對照私解
九	九	九	九	各冊	各冊	一〇二二	舊獨逸步兵操典對照私解
一	一	一	一	各冊	各冊	一〇二三	舊獨逸步兵操典對照私解
三	三	三	三	各冊	各冊	一〇二四	舊獨逸步兵操典對照私解
五	五	五	五	各冊	各冊	一〇二五	舊獨逸步兵操典對照私解
七	七	七	七	各冊	各冊	一〇二六	舊獨逸步兵操典對照私解
九	九	九	九	各冊	各冊	一〇二七	舊獨逸步兵操典對照私解
一	一	一	一	各冊	各冊	一〇二八	舊獨逸步兵操典對照私解
三	三	三	三	各冊	各冊	一〇二九	舊獨逸步兵操典對照私解
五	五	五	五	各冊	各冊	一〇三〇	舊獨逸步兵操典對照私解
七	七	七	七	各冊	各冊	一〇三一	舊獨逸步兵操典對照私解
九	九	九	九	各冊	各冊	一〇三二	舊獨逸步兵操典對照私解
一	一	一	一	各冊	各冊	一〇三三	舊獨逸步兵操典對照私解
三	三	三	三	各冊	各冊	一〇三四	舊獨逸步兵操典對照私解
五	五	五	五	各冊	各冊	一〇三五	舊獨逸步兵操典對照私解
七	七	七	七	各冊	各冊	一〇三六	舊獨逸步兵操典對照私解
九	九	九	九	各冊	各冊	一〇三七	舊獨逸步兵操典對照私解
一	一	一	一	各冊	各冊	一〇三八	舊獨逸步兵操典對照私解
三	三	三	三	各冊	各冊	一〇三九	舊獨逸步兵操典對照私解
五	五	五	五	各冊	各冊	一〇四〇	舊獨逸步兵操典對照私解
七	七	七	七	各冊	各冊	一〇四一	舊獨逸步兵操典對照私解
九	九	九	九	各冊	各冊	一〇四二	舊獨逸步兵操典對照私解
一	一	一	一	各冊	各冊	一〇四三	舊獨逸步兵操典對照私解
三	三	三	三	各冊	各冊	一〇四四	舊獨逸步兵操典對照私解
五	五	五	五	各冊	各冊	一〇四五	舊獨逸步兵操典對照私解
七	七	七	七	各冊	各冊	一〇四五	舊獨逸步兵操典對照私解
九	九	九	九	各冊	各冊	一〇四六	舊獨逸步兵操典對照私解
一	一	一	一	各冊	各冊	一〇四七	舊獨逸步兵操典對照私解
三	三	三	三	各冊	各冊	一〇四八	舊獨逸步兵操典對照私解
五	五	五	五	各冊	各冊	一〇四九	舊獨逸步兵操典對照私解
七	七	七	七	各冊	各冊	一〇五〇	舊獨逸步兵操典對照私解
九	九	九	九	各冊	各冊	一〇五一	舊獨逸步兵操典對照私解
一	一						

柳雨著 戰爭乃片影全冊	長澤大尉著 繼騎砲兵戰術の研究全冊	多門大尉著 續騎砲兵戰術の研究全冊	久保大尉著 改正騎兵操典詳解全冊	米田大尉著 予が參加したる日露戰役附近の谷源(一名日露戰對照戰記)全冊
仙波少將校閱 著	菱刈中佐校閱 共著	河西少佐校閱	正野戰砲兵操典詳解全冊	正野戰砲兵操典詳解全冊
木全大佐著 將校用	三澤大尉著 研究會著	三澤大尉著 研究會著	研究會著 範例的想定全冊	研究會著 範例的想定全冊
名和少將校閱 各兵科	野口少將校閱	野口少將校閱	改正步兵操典詳解全二冊	改正步兵操典詳解全二冊
仙波少將校閱	三澤大尉著 研究會著	三澤大尉著 研究會著	陣中勤務詳解上各二冊	陣中勤務詳解上各二冊
木全大佐著 將校用	斷雲居士著	斷雲居士著	中隊の家庭教育全一冊	中隊の家庭教育全一冊
名和少將校閱	兵藤三郎著	兵藤三郎著	統帥心理學全一冊	統帥心理學全一冊
仙波少將校閱	兵藤三郎著	兵藤三郎著	最和獨兵語辭典全一冊	最和獨兵語辭典全一冊
木全大佐著 將校用	曾根田中尉著	曾根田中尉著	新獨和兵語辭典全一冊	新獨和兵語辭典全一冊
名和少將校閱	研究會著	研究會著	射擊教練の私解全一冊	射擊教練の私解全一冊
仙波少將校閱	丁丁生著	丁丁生著	野外戰術實施上中下全三冊	野外戰術實施上中下全三冊
木全大佐著 將校用	本社謹輯明治大元帥陞下御製全冊	本社謹輯明治大元帥陞下御製全冊	徵兵並陸海軍志願者必携全冊	徵兵並陸海軍志願者必携全冊
名和少將校閱	戰鬪原則の應用第一卷	戰鬪原則の應用第一卷	訂正增補第三版	訂正增補第三版
仙波少將校閱	戰術應用例全冊	戰術應用例全冊	研究用二萬分一地圖全部各一冊宛付	研究用二萬分一地圖全部各一冊宛付
木全大佐著 將校用	戰術應用例全冊	戰術應用例全冊	陸軍戰術再審問題答解全冊	陸軍戰術再審問題答解全冊
名和少將校閱	戰術應用例全冊	戰術應用例全冊	明治四十陸軍大學校入學初審試驗問題	明治四十陸軍大學校入學初審試驗問題
仙波少將校閱	戰術應用例全冊	戰術應用例全冊	附、答解構成ノ要領全冊	附、答解構成ノ要領全冊
木全大佐著 將校用	戰術應用例全冊	戰術應用例全冊	に於ける諸兵種協同動作の原則	に於ける諸兵種協同動作の原則

東行記

付續々御用命願上候
亦阪區表町二丁目一番地
兵事雜誌社
電話 芝 五六〇五番
振替序金口座二〇九八七地

319

368

1

終

